講義名	（対面）自然観察入門★				
科目区分	教養一般				
担当教員	南木　睦彦				
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 １時限			授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科／ 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース／2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース／2018年度 人間社会学部 観光学科／				
履修開始年次	１年生	単位数	2	備考	

主題と概要

身の回りの「自然」を観察することを通して、自然について学ぶ科目。観察眼を鍛え、記録の技術を学ぶ。観察結果を記録するためのことばの豊かさを身に付け、要所をとらえた描画の力を付ける。教室内外で様々な自然観察の機会を作る。様々な観察を通じて学ぶ視点は次の通り。
１．特定の視点や仮説を持って自然を見ると、それまでには見えていなかったものが見えてくる。普段は眺めているだけで、「観察」はしていないことが分かる
２．仮説を持たずに自由観察することも有益なことがある。ネイチャーゲームを通じて、「自分で発見する」「自分で気づくこと」の大切さを学ぶ
３．生物は進化の結果現在の姿になっており、形や構造は機能と密接な関係があり、合理的にできている
４．観察対象によって、見どころは異なっている。観察の「コツ」がある
５．進化的に近縁な種類は形や構造に共通点がある
６．種類分け(分類）には様々な手法がある。種類分けをするための観察をすると、新たな気づきを得ることができる

到達目標

自然に関する興味や関心を増す。
自然を観察する基礎的な技能を身につける。

提出課題

毎回の授業で、その日の観察で作成したレポートを提出する。このほかに一人ずつがテーマを持って授業時間外に継続的に観察をして、そのレポートを提出する。
オンデマンド型授業との併用になる場合は、自宅で作成したレポートを分散登校日に提出していただく予定である。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎回の授業の提出物は、基本的には次回に講評・解説するとともに、授業終盤にそれまでの提出物を採点・返却する。授業時間外継続レポートについては、提出締め切りが授業終了後になる予定なので、Ryuka Portalを通じて、講評・解説する。

評価の基準

毎授業時の提出物60%、個人による授業時間外継続観察レポート40%。
毎授業時の提出物は1回につき４点で採点し、４点×１５回で６０点になる。「出席点」ではないことに注意すること。提出物があまりにひどい場合はマイナス点がつくこともあるし、非常に優れている場合は４点よりも高い得点（4.5点、5点）をつけることもある。
授業時間外継続レポートの詳細は授業中に説明する。

履修にあたっての注意・助言他

授業内容からは、すべて対面授業で実施したいが、履修者数によっては、分散実施として、2回に1回、あるいは3回に1回、あるいは4回に1回のみ対面授業とし、残りはオンデマンド型授業とする可能性がある。どお幼な方式で実施するかについては、Ryuka Portalの講義連絡で伝えるので十分注意すること。
ルーペか虫眼鏡など低倍率の拡大鏡を各自で用意することが望ましい。実習的な授業であるため、対面授業における遅刻は決してしないようにすること。

教科書

.使用しない。.

プリント資料及び参考文献

毎回の授業開始時に当日資料を配布する。オンデマンド授業との併用の場合は、Ryuka Portalの講義連絡で配布する。

授業計画

天候等により、観察の順や対象が変更になることがあります。★を付けた課題は屋外で実施します。
オンデマンド授業との併用になる場合は、内容や順序を変更する。
１．指紋と掌紋
２．葉脈
３．流通科学大学自然観察ビンゴ （ネイチャーゲーム）★
４．空と雲 ★
５．大学周辺の土地利用★
６．ドングリの仲間
７．マメ科種実の観察
８．種実ミックス（ハムスターのえさ）の観察、分類と同定
９．出汁じゃこ（カタクチイワシ）の観察
１０．落ち葉の分類と同定
１１．飛ぶ種ペーパークラフト
12．チリモン分類同定
13．映像資料を用いた動物行動の観察
14．自然観察から人間観察・社会観察へ
15．授業時間中作成レポート返却と講評、ふりかえり

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
○	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業については、予習復習の必要はない。
期末レポートの作成には、短い学生で数時間、長い学生では数カ月かけている。レポートの作成に用いた労力も評価対象であるから数時間の労力では高い評価は望めない。少なくとも、半日～数日の労力を用いる学生が合格者には多い。
授業時間外学習時間は、数時間～100時間以上と人によって大きく異なるが、合格者の平均像は15時間～50時間程度であろうか。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考